



経済活動

ナバラは1960年まで、著しい農村地方で、農業が中心でした。ナバラ政府の財政援助によって、その後産業が発達しました。現在は第三次産業に力が注がれており、欧州の中でも優れたサービスを誇っています。

ナバラ経済の優れている点は、現在すばらしいインフラを伴った恵まれた地理的位置にあり、外へ向けて適切に開かれ、経済自治権をもったバランスのよい生産力をもつ構造です。このため失業率は、欧州平均よりも低く、また2004年5月の加盟国増加後、人口当たりの国内総生産指数は、購買力基準値比較で、欧州連合に対して16ポイント上回っています。

ナバラはわずかとはいえ、重要な農業、畜産、森林資源もその該当地域で保存し続けています。山地は森林、特に畜産地域で、そこでは乳、食肉製品の産業化ならびに商業化された酪農肥育が主におこなわれ、また豚、羊も飼育されています。じゃがいものようないくつかの作物も多く栽培されています。古くからの地中海乾地農法地作物の豊かな河岸地域では、専門化された農業により、最高の品質を誇っています。小麦、ブドウ、オリーブなど、さらに豊かな灌漑地の産業作物、農園作物、果樹作物にも成功しています。

アスパラガス、アーティチョーク、ピキーリョピーマン（赤ピーマン）、その他おいしい作物の生産地です。ナバラの農業はスペインの中でも最新技術導入がもっとも進んでおり、高い生産性を誇っています。農業地の所有については、中程度の広さの耕地で、比較的バランスのよい構造になっています。

産業は、非常に重要な社会経済分野を築いており、それによって著しく州を豊かにしてきました。以前のナバラには製造業の発展はほとんどなく、あっても農業、牧畜業、森林業、北西部の小さな鉄鉱脈といったその土地にある資源に限られていました。また伝統的な産業についても同様で、当時建設材しか製造されていませんでした。しかしながらナバラ産業は、1960-1965年間に大きな飛躍を、いくつかの分野は変化を遂げます。まず、その当時まで続けられていた基本的なガイドラインが変わり、その製造管理に活力が加えられました。それは現在も続いています。一方、フランスや他のヨーロッパ諸国とを結ぶ港、エプロ交通軸とバスクという大きな産業中心地など、恵まれた地理的位置もうまく利用されました。つまりナバラは、すばらしい農牧畜業原材料に恵まれ、多くの労働力を必要としない機械化された地域になったのです。このため国内、国際私企業家精神がナバラ

に魅力ある土地、熟練労働者といった大きな経済利点を見出し、この地に設備（工場）を設置したのです。

産業分野はひじょうに多種多様です。中でも際立つのは、金属産業、金属加工です。この金属産業の主な派生分野は、自動車産業で、その重要な核ともいえるフォルクスワーゲン工場とそれに付随するすべての製品工場があります。また食品、紙、グラフィックアート、靴、繊維、プラスチック、化学、陶器、建設材産業も重要な分野です。これらの産業の多くは、それぞれの行政機関の協力によって土地評価がゆるやかだったパンプローナとその周辺、ナバラの中心的な町にある工業団地に位置しています。

河岸地方では、エプロ川流域にそって、野菜保存品とワイン産業が盛んです。トゥデラは、冶金工業、建設材、食品、化学、家庭電化製品産業の中心地です。

ペラルタの金属産業、エステーリャのグラフィックアート産業、アリヨ、レイツァ、サングエサの紙産業、レサカ、ベラデビダソアの冶金産業、オラサグティアのセメント、カスカンテの繊維産業などがナバラに満遍なく配置されています。

ナバラには、国内有数の金融機関があり、カハ・デ・アオロス・デ・ナバラとカハ・デ・アオロス・デ・パンプローナの合併でできたカハナバラ（ナバラ銀行）は、ナバラの織物産業やサービス産業の発展における基本的財政計画を強固にしました。またナバラ政府は、地方分権と経済的自立によって、重要な公共事業の促進をはじめ、教育、医療、スポーツ、その他数多くのサービスを提供することができました。

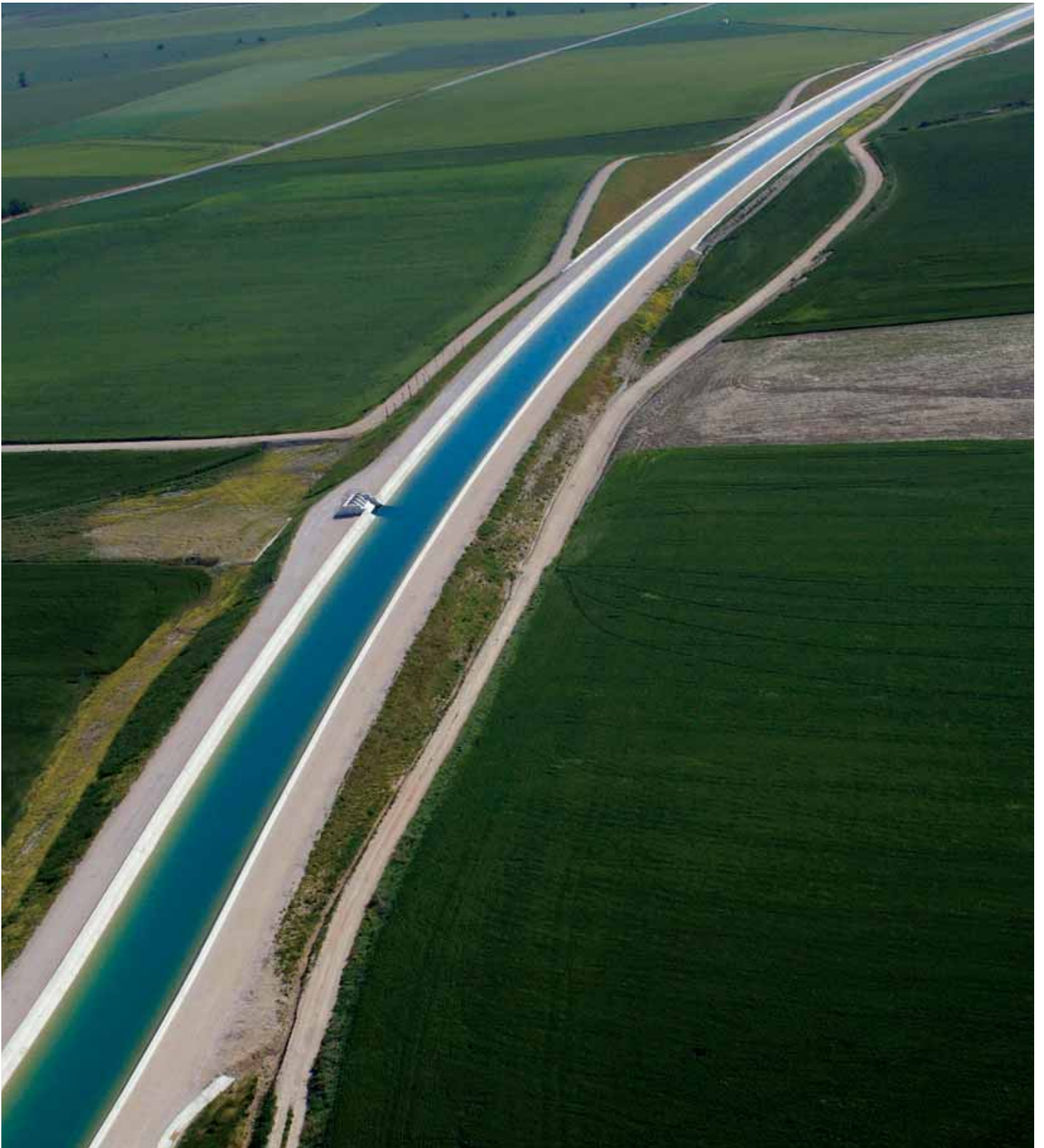
経済分野散策

農業と牧畜業

雇用に関しては5.9%というわずかな割



ナバラ水路





過去から現在へ

合にもかかわらず、社会的に重要な分野で、さらに農工業分野に高品質原料を供給しています。ナバラの北から南を巡ると、森林資源の豊富な山岳部が目を引きます。また数多くの牧草地、とうもろこし、テンサイ作物は、牧畜業者の存在を意味します。そこから中央部の盆地へ進むと穀物、飼料用作物、果実が多くなり、最後にひまわりやセイヨウアブラナといった加工用プランテーションが広がります。河岸地方にかかると、オリーブ畑や特にブドウ畑が増え、名高い灌漑地では園芸作物が大量に栽培され、伝統ある重要な保存食産業に加工されています。この現状を明確に示す指標として、原産地呼称があり、ワイン、アスパラガス、ロドーサのピキーリョピーマン、ロンカルチーズ、イディアサバルチーズ、そしてパチャランが質の高いナバラの産品であることを保証しています。またナバラの農地の活力に関して、機械化の指標が国内平均よりずっと上だというデータも注目すべき点です。

産業

ナバラは、60年代の最初の開発計画から顕著な過渡期を経て、保守的な社会から近代的で進んだ州へと変わりました。工業化は勢いと変化を経験し、定着と拡大という明確な局面に遭遇していました。工業化の始まった1960年のもっとも重

要な産業分野は、繊維産業、皮製品と衣類、食品、飲物とタバコ、化学工業、鉱物とエネルギー、そしてわずかなそれらの派生品でした。1973年、首位は金属工業になりました。1987年、自動車産業の優勢が確実となり、食品、金属、エネルギー、紙、出版が続きます。21世紀初め、産業活動の中でもっとも抜きんでいるサブセクターは、自動車と機械で、この二つは農業食品とともにナバラの産業粗付加価値の半分を占めています。ナバラの粗付加価値に産業分野全体が占める割合は高く、全体の31.8%になっています(スペインは20.9%)。一方風力、光電池、太陽光産業で最近著しい発展が見られます。またナバラは、再生エネルギー生成のパイオニア地域になっており、これらの手段は電気エネルギー消費の60%を補っています。

サービス業

この分野は、この20年間に重要な役割を演じ、著しく成長してきただけでなく、これからも長くその成長が続く可能性があります。ナバラの雇用の半分以上がこの分野に携わっていると推測され、これはまた地方粗付加価値の半分以上を占めることを意味しています。その中でも活が見られる業種は、企業サービス、小売、不動産、そして忘れてはならない行政に強く結びついた医療、教育、社会

サービスなどがあります。また観光も大きく成長しており、そのイニシアティブはナバラの特性に力を与え、大きな町も地方の名高い民宿・ホテル網も近年大幅に宿泊能力をアップし、高い質の観光を提供しています。ナバラは、ピレネー山脈とフランス国境に接し、サンティアゴ巡礼の道の重要区間という地理的条件から、また文化的インフラ、大学インフラ、風景、モニュメント、民俗学、祭り、おいしい食べ物など限りない可能性があるために、どれでも好きなものを選ぶことができ、それが魅力となって多くの人々を引きつけています。さらにロンカル、サラサール、アエスコア、バスタン、レガタデルビダソアの谷は、サンティアゴ巡礼の歴史的文化的伝統をもつだけでなく、伝統、すばらしい原料、適切な革新と定評ある復元によってよく知られた食に関する分野があり、大きな可能性を持っています。

ナバラの医療システムは、広く国境を超えて知られています。以前国家がおこなっていた権限を獲得し、公衆衛生は、本質的には公的事業ですが、権威と質の高さから私的分野も重要な存在になっています。こういったことからナバラは、医療に関して、欧州でもっとも進んだ国と同じレベルにあり、医療投資は国の平均を上回っています。またナバラの医療政策は、世界保健機関により計画された

もっとも進んだ戦略を実行しています。

教育と研究

ナバラの教育システムは、申し分なく、また学校教育要求の必要を満たしています。幼児教育から大学院課程までが含まれ、その間には普通教育の全課程はもちろん、総合的教育の観点から言語、音楽、芸術教育、専門技術など、特別教育にも目が向けられています。

システムはナバラ政府の管轄下にあり、16歳未満の全児童・生徒の公立あるいは私立学校での就学が実現されています。教育施設と種類の選択は可能で、多くの場合その選択は、児童・生徒の保護者によっておこなわれています。ナバラ政府は、かなりの額にのぼる公立、私立学校の設備や教育研修などの全額あるいは一部の費用を負担しています。このようにナバラ州の教育施設は、すでに欧州レベルに達しています。

バスク語教育は導入が進められ、ナバラのさまざまな地域、特にバスク語が話されている地域やスペイン語とバスク語の両言語が話されている地域で力を増しています。そこでは、公立私立を問わずナバラ独自の言語バスク語を学び、研究することができます。





ナバラ大学
情報科学学部
パンブローナ

過去から現在へ

さらにナバラ政府は、一般教育、専門教育、文化的または個人的な完成を目指した常設成人教育プログラムを続けています。

1986年に生まれたナバラ州立大学の開校は、ナバラ行政立法機関の決定により生まれ、高等教育の場を提供しています。すでに1960年代からオプスデイ宗教法人がナバラ大学の事業を進めていました。この大学が手にした名声は、例えば前衛的な医学部 - ナバラ大学病院があることから、地域や国の境を超えて広がっています。

この大学の研究活動は、2004年の応用医学研究センター（CIMA）の発足以来促進され、腫瘍学、心臓血管壁病理生理学、パーキンソンやアルツハイマーなど一般的な変性疾患を専門とした神経科学、最後に肝臓学での遺伝子治療という生物医学的研究の四つのジャンルが統合されています。先進国の死亡原因の90%であるこれらの専門分野に、その多くが世界先端に位置する400人近くの医師、科学者が従事しています。一方スペイン黄金の世紀や、スペイン近代歴史、スペイン古典思想、聖書、情報社会の新しい法律上の挑戦など、人文科学、社会科学の研究も進んでいます。ナバラ州立大学は、すでにあつた高等教



育施設が統合されてできたのもので、革新的な学科構造を採り入れ、ナバラ社会への明確な学術的、科学研究的サービスを提供しています。具体的には、幅広い発明や科学技術を企業に橋渡しして企業革新につなげることを目標に、技術移転局（OTRI）を通して有意義な調査研究を行っています。

ナバラ州立大学
図書館
バンブローナ



過去から現在へ

こうして州立大学は、企業が大学研究の助けを借りて自身の発展に役立てられるよう、以下の分野にスタッフや方策のサービス契約を提供しています。バイオテクノロジー、建設、経済・経営コンサルタント、エネルギー、食品産業、電気・電子装置産業、金属機械・自動車産業、化学・薬品産業、環境エンジニアリング、ルーラルエンジニアリング、農業分野、司法サービス、ソーシャルサービス、テレコミュニケーションと情報新技術。テレコミュニケーションと情報新技術では、管理とブロードバンド網の有効性を改善するため、また大学の管理センターにインターネットの欧州トラフィック観測所を開設するため、欧州プロジェクトの一つに参加しています。

さらに、パンブローナとトゥデラにあるUNED（通信教育大学）の二つのセンターの存在も強調すべきでしょう。

またいくつかのナバラの大学の進んだ研究のほかに、教育ピラミッドの頂点には、ナバラレーザーセンター、寸法計測研究所、穀物・牛技術研究所、ブドウ栽培とぶどう酒醸造学研究所、農業研究所、ナバラ産業協会、エプロ研究所など、公的私的組織があります。ナバラの教育と研究の水準はスペイン平均より非常に高く、

欧州連合の進んだ国々のレベルに確実に近づいています。

情報と知識社会

テレコミュニケーション分野が試みている大きな転換は、絶え間ない技術の進歩により強化され、“情報社会”と呼ばれる社会をもたらしています。そしてこの社会によって、新しい技術と進んだサービスの利用が現代社会のどの分野でも重要性をもつようになってきているところに大きな特徴が見られます。

情報社会は、また生産や操作方法、会社との関係などに変化をもたらし、仕事の仕方や労働関係に著しい直接の影響を及ぼし、さらにそのために経済、社会、文化生活のすべての分野に持続的な影響を及ぼし始めています。

この社会的・経済的変革は、主に二つの要因から成っています。一つは、すべての種類の用途にアクセスできる同一信号の処理手続きが可能なネットワークとサービスのデジタル化。もう一つは、与えられた手段に頼らないでユーザーが利用できる新しい用途の規格化と標準化です。

パンブローナ プラネタリウム
山口公園



過去から現在へ



過去から現在へ



このためナバラ政府は、情報社会の活動と促進計画をとおして、情報社会のリーダーシップをとっています。

まず 2001 年、3 年の効力をもった計画が承認され、現在、研究調査活動を備えた競争力のある、技術化された責任を負った企業組織創造と成長の促進、教育と訓練の絶え間ない改善による最適化、医療や社会サービスの質を高めるための新技術の潜在力利用、そしてこれらの手段へアクセスできる機会均等を保証するという 2 番目の計画が実行されています。

ナバラは、“知識社会”として知られる次のステップを手に入れようとしています。そこでは、企業の経済的潜在力発展と、ナバラ州民すべての個人的な豊かさの成長に利用できるさまざまな情報提供技術が、勢いよく生み出されています。

ビルヘン・デ・カミーノ病院
インテリジェント手術
パンブローナ